

ドイツとの出会いが屋上緑化事業実現のきっかけに ～川越商工会議所ミニL.L.事業、新たな成果～

9月27日、昭和工業(株)の屋上に緑化技術の実証と紹介を兼ねた「屋上緑化ガーデン」が誕生しました。

「屋上緑化ガーデン」は、野菜畑やハーブ園、低木、ブルーベリー畑、メダカのビオトープで構成されており、さながらミニ庭園となっています。

野菜畑では、トマト、ナス等の果実類やブロッコリーなどいろいろな野菜を収穫できたとの事で、これから冬に向かっては、根菜類やキャベツ、白菜等の鍋料理用野菜を育て、収穫した材料を使って屋上での鍋パーティーを企画している、との事です。

この「屋上緑化ガーデン」を作られた昭和工業(株)が屋上緑化事業に取り組むようになったきっかけは、当商工会議所がジェトロ(日本貿易振興機構)と共同で実施したミニL.L. (Local to Local) 事業の一環として行った、ドイツ・オッフェンバッハ商工会議所との経済交流の中で長崎県内のメーカーが製造している屋上緑化向け改良土と再生ゴム製レンガブロックと出会い、屋上緑化事業への取り組みを始められたそうです。

昭和工業(株)の担当者の方は、「初めて手にした改良土の実感、従来の『土』の感触とは違って軽く、さらさらしていてどんな人でも簡単に扱える感じでした。ただ、資料に書かれているセールスポイントが本当であるかどうかを確認する為に、東洋大学工学部 小瀬助教の助言を頂きながら、2002年6月より3年間、産学連携による基礎研究を積み重ね、期待以上の地球温暖化防止効果等、環境改善効果が高く、様々な楽しみ方が出来る事が分かりました。又、レンガブロックについては、廃タイヤ由来の再生ゴムを原料として使っ

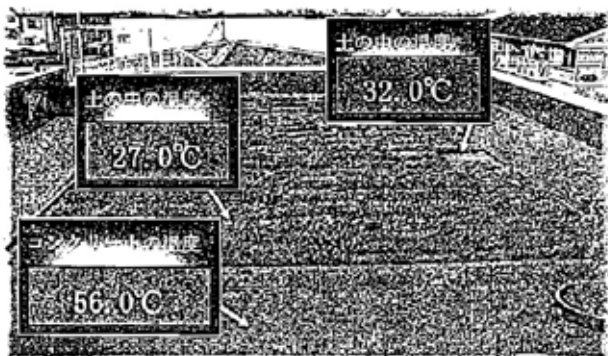


昭和工業(株)の屋上緑化ガーデンです

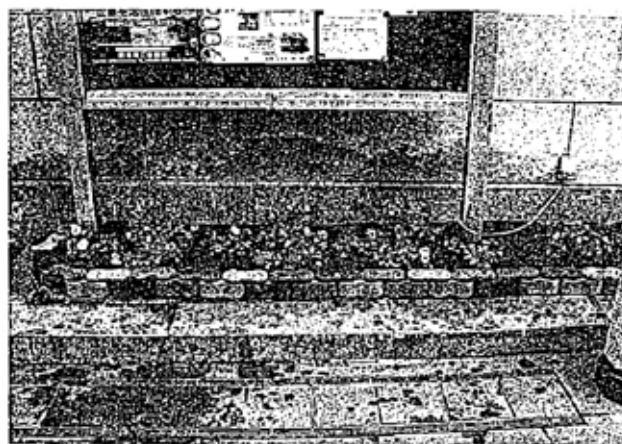
ているので、設置・拡張などが簡単でぶつかっても怪我をしにくく、環境にも優しいと言う点が採用の決め手となりました。」と、屋上緑化事業実現の立役者である二つの製品について説明されました。

尚、当商工会議所でも、周辺環境の改善と商店街緑化に当たっての技術検証、および都市緑化月間への協力を目的として、昭和工業(株)のご協力の下、10月7日に商工会議所掲示板下の空きスペースを利用してミニ花壇を設置いたしました。

今後、草花の生育状況や周辺環境の改善効果等を見極めながら、ミニ花壇の増設や商店街の緑化についての提案等を検討して行く予定です。



コンクリートと芝生ではこれだけの差があります



設置が終わった後の商工会議所花壇です